

## 第10回グローバルCOE主催ワークショップ

### 『哲学への権利——教育哲学と哲学教育のあいだ』

日時： 2010年3月13日（土）13：30～17：30  
場所： 京都大学大学院人間・環境学研究科棟・地下講義室  
（京都大学吉田南キャンパス <http://www.h.kyoto-u.ac.jp/access/>）  
参加： 参加自由・入場無料  
企画： 小野文生（京都大学グローバルCOE・教育学研究科）  
主催： 京都大学グローバルCOE「心が活きる教育のための国際的拠点」ユニットD

#### プログラム

##### ■第1部 上映会 13：30－15：10

ドキュメンタリー映画「哲学への権利——国際哲学コレージュの軌跡」（2009年）

**(Le droit à la philosophie: les traces du Collège international de Philosophie)**

監督： 西山雄二

出演： ミシェル・ドゥギー、フランソワ・ヌーデルマン、ブリュノ・クレマン、カトリーヌ・マラブー、フランシスコ・ナイシュタット、ジゼル・ベルクマン、ボヤン・マンチェフ

上映時間： 93分 フランス語／日本語字幕付

※参考HP（予告編） <http://rightphilo.blog112.fc2.com/>

（休憩 15：10－15：30）

##### ■第2部 討議 15：30－17：30

パネリスト：

西山雄二（東京大学大学院総合文化研究科）

森田伸子（日本女子大学人間社会学部）

大河内泰樹（京都産業大学文化学部）

山名 淳（京都大学大学院教育学研究科）

司会： 小野文生（京都大学グローバルCOE・教育学研究科）

問い合わせ先： 京都大学大学院教育学研究科 小野文生（[ono@educ.kyoto-u.ac.jp](mailto:ono@educ.kyoto-u.ac.jp)）

電話：075（753）3006

## ■企画趣旨

本企画では、まず第1部において西山雄二監督（東京大学特任講師：哲学・フランス思想）によるドキュメンタリー映画『哲学への権利——国際哲学コレージュの軌跡』（2009年、93分、フランス語／日本語字幕付き）を上映する。

国際哲学コレージュ（CIPH）は、1983年にジャック・デリダやフランソワ・シャトレらによってパリに創設されたアソシエーション（市民団体）であり、大学や研究機関と連携しつつもそれらからは独立した「固有の施設をもたない」教育・研究組織である。そこでの教育・研究活動は、大学や研究所常勤の研究者のみならず、若手研究者や学生、一般市民にも開かれており、また哲学のみならず、芸術・文学・精神分析・科学など異領域の学問どうしを相互に関連させながら「諸学問の限界それ自体を問いに付すような隣接性の創造」（西山）が企図されている。デリダをはじめとする創設期を担ったひとびとの夢と格闘の軌跡を、その知の運動に加わり現在も推進している人びとの語りによって再現した本作品は、転換期にある現在の大学に身をおく私たちに対してきわめて多くの問いを突きつけ、しかし同時にそれと同じくらい力強い希望を投げかけている。

第2部では、第1部の上映会をうけて、ワークショップ『哲学への権利——教育哲学と哲学教育のあいだ』と題したパネル討論会を催す。企画者の小野文生（京都大学：教育哲学・思想史）による司会のもと、監督の西山雄二（東京大学：哲学・フランス思想）に加え、森田伸子（日本女子大学：教育思想史・教育哲学）、大河内泰樹（京都産業大学：哲学・倫理学・ドイツ思想史）、山名淳（京都大学：教育哲学・教育史）をパネリストに迎え、現在の私たちにかなる教育と哲学の可能性が残されており、また、いかなる展望が拓かれるのかを語り合う。

「哲学への権利」という問いかけには、単なる狭義の一専門分野としての哲学にはおさまらない、きわめて多くの問題が含まれている。たとえば、現代における大学や知の制度のあり方、研究と教育や専門と教養の関係、学問と自由の関係、学問の学際性や国際性の可能性、人文学と自然科学のせめぎあい、などである。あるいはまた、国際哲学コレージュの実験について討議することのうちには、研究者育成のシステムについて、市民大学など生涯教育のありようについて、国際的な観点から比較考察する視点さえも含まれる。「哲学への権利」は、その意味で同時に「教育への権利」として理解されねばならないだろう。

これらもろもろの問いは、教育学や心理学にとっても無縁ではありえない。とりわけ教育学や心理学は、元来は国民国家の成立と近代化のなかでしだいに哲学から機能的に分化し自立してきた「根」を同じくする学問であるし、また、ふたたび「融合」や「横断」や「連携」が謳われている現在にあって、哲学など諸学との「隣接性」を考慮することは少なからぬ意味をもつといえるからである。

また、討論に筋道をつけるべく今回特に「教育哲学と哲学教育のあいだ」という副題を設定してみた。その理由は、いくつかある。

第一に、上で述べたように、国際哲学コレッジやこの映画が問題としているテーマが端的に「教育と哲学」であるということ。つまり、その実践がある種の教育哲学によって支えられ、またその教育哲学を体現すべくある特定のスタイルの哲学教育が実践されているのだとすれば、その教育哲学と哲学教育のありようと相互の連関がどのようなものか、またどのようなものでありうるのかを問うことが、まずはこの映画から私たちが引き受けねばならない課題だということ。

第二に、一学問領域としての教育哲学と人文学の危機とのかかわり。これについては少し説明が必要だろう。昨今の大学改革においては、学問の有用性・即効性・実践性のみが突出して強調され、あるいは同様に教員養成制度改革においても、資格科目としての教育学は実践的なもの・臨床的なものへ重心はシフトしつつある。一方で資格制度に支えられながら、他方で学問的性格をメタレベルにおいて再帰的に省察し、理論・実践の連関を問いつつ、教育の理論・原理・思想史を研究するという課題を担ってきた教育哲学には、現在あるいは未来においてどのようなありようと意義が求められるだろうか。この問いを考えるためには、たんなる一分野としての教育哲学固有の問題としてのみ引き受けるのではなく、共通の困難に直面している人文学や哲学との対話へ開かれることが重要であるようにおもわれる。

第三に、「教育と哲学」の関係、「教育哲学と哲学教育」の関係という二重の「と」の場所を思考するために、教育学者と哲学者が対話する具体的な機会にしたいということ。上述のようなもろもろの問いのなかで浮かび上がってくるであろう、教育学者にとっての教育哲学や哲学教育のイメージと哲学者にとっての教育哲学や哲学教育のイメージとを交感させ、可能なる教育と哲学への示唆をえられればとおもう。

なお、西山氏は現在、東京大学グローバル COE「共生のための国際哲学教育研究センター (UTCP)」のプログラム・マネージャーとして、学際性・領域横断性・国際性に開かれたものとして哲学を再構築する活動に携わっておられる。このワークショップは、まさしく「グローバル COE」という現在進行形の知の制度を問い直しつつ、私たち京都大学グローバル COE の活動と協働・対話する好機となるはずである。

国際哲学コレッジという「大学の余白」に生み出される知の運動が提起する問いの数々は、人文学やグローバル COE に直接に関与するひとつのみならず、さらに自然科学などそれ以外の学問領域に携わるひとつと、そして流動化する現在の大学という場に身をおきながらその「余白」について思考しようとするすべてのひとつとに、開かれている。

ドキュメンタリー映画

# 哲学への権利

Le droit à la philosophie: Les traces du Collège international de Philosophie

## 国際哲学コレージュの軌跡

西山雄二 監督作品

国際哲学コレージュが受け入れてきた数々の革新は、根底的に変容しつつある世界へと思考をたえず聞いてきた。この意味で、映画「哲学への権利」は「世界を変化させる」作業に対するきわめて貴重な貢献である。こうした変化の端緒が開けるのは、「世界」が意味するものの「解釈」を通じて、つまり、「国際」や「哲学」が意味するものの解釈を通じてなのだから。

——ジャン=リュック・ナンシー

多種多様な角度からの鑑賞が要求される、哲学に関するたぐい稀な映画。私たちは、現代哲学が引き受けるべき責務を、西洋と非西洋という言説を乗り越えた世界を体現するという現代哲学の責任をたしかに思い出す。

——酒井直樹

映画「哲学への権利」は過去の映画ではない。現在の世界における哲学の状況を問いながら、本作品が描き出すさまざまな方向性は、まちがいがなく、未来の思考にとっての重大な指針となるだろう。

——カトリーヌ・マラブー



1983年、ジャック・デリダらが脱構築の論理をもとにパリに創設した半官半民の独自の研究教育機関「国際哲学コレージュ」をめぐる初のドキュメンタリー映画。収益性や効率性が追求される現在のグローバル資本主義下において、哲学や文学、芸術などの人文的ものの可能性をいかなる現場として構想し実践すればよいのか。監督・西山雄二が歴代の議長を含む関係者7名へのインタビューを通じて、大学、人文学、哲学の現在形と未来形を描き出す。



出演: ミシェル・ドゥギー、フランソワ・ヌーデルマン、ブリュノ・クレマン、カトリーヌ・マラブー、フランシスコ・ナイシュタット、ジゼル・ベルクマン、ボヤン・マンチュフ 音楽: matryoshka 監督: 西山雄二 上映時間: 93分 フランス語(日本語字幕)  
助成: 文部科学省研究費補助会若手B課題番号20720002 徳園: 東京大学グローバルCOE「共生のための国際哲学教育研究センター(UTCP)」

University  
CT  
Center  
for  
Philosophy

## 映画「哲学への権利——国際哲学コレージュの軌跡」上映・討論会

※料金が表示されている一部を除き、基本的に入場無料、事前予約不要です。映画上映(93分間)後に休憩を挟んで実施される討論会はすべて、西山雄二監督とゲストによって構成されます。すべての回で、上映のみの参加も、討論会のみでの参加も可能です。詳細は変更される場合があります。上映情報や映画の概要、上映会報告については、公式HP (<http://rightphilo.blog112.fc2.com/>)をご参照ください。



**12月5日(土)** 上映-13:30-15:05/討論-15:15-16:30

**南山大学** 名古屋キャンパスJ棟1階特別合同研究室

討論「ジャック・デリダにおける教育と哲学」

ゲスト: 宮崎裕助(新潟大学)、加藤泰史(南山大学)

主催: 南山大学ヨーロッパ研究センター

**12月12日(土)** 上映-17:00-18:40/討論-18:50-20:10

**ジュンク堂書店新宿店** 8F 喫茶

討論「哲学の使命」

ゲスト: 荻野稔人(津田塾大学)

入場料: 1,000円(ドリンク付) 定員: 50名 予約 TEL: 03-5363-1300

主催: ジュンク堂書店新宿店 (担当: 阪根正行)

**12月21日(月)** 上映-13:00-14:35/討論-14:40-15:30

**ICU 国際基督教大学** H-316(本館3階)

討論「大学の理念、そして制度——映画『哲学への権利』とともに」

ゲスト: 佐野好則(ICU) 主催: 武藤康平(ICU)

**1月7日(木)** 上映-14:30-16:05/討論-16:10-17:30

**広島大学** 高等教育研究開発センター授業開発研究室

討論「高等教育制度における人文科学の形」

司会: 大場淳(広島大学) 主催: 広島大学高等教育研究開発センター

**1月16日(土)** 上映-17:45-19:20/討論-19:25-20:45

**朝日カルチャーセンター新宿校** 新宿住友ビル7階

討論「ジャック・デリダにおける教育と哲学」

ゲスト: 高橋哲哉(東京大学)

受講料: 会員 3,360円 / 一般 3,990円 / ACC学生会員 1,500円

主催: 朝日カルチャーセンター新宿校 (担当: 横井周子)

Tel: 03-3344-1998 もしくは 1945

**1月19日(火)** 上映-18:15-19:50/討論-20:00-21:15

**早稲田大学** 早稲田キャンパス 1号館 310教室

討論「ジャック・デリダにおける教育と哲学」

ゲスト: 岡山茂(早稲田大学)、藤本一勇(早稲田大学)

主催: アレゼール日本

**1月23日(土)** 上映-14:00-15:35/討論-15:45-

**東京外国語大学** 海外事情研究所会議室(研究講義棟4階427)

討論「大学の未来」

ゲスト: 岩崎稔(東京外国語大学) 他未定

主催: WINC (Workshop in Critical Theory)

**1月25日(月)** 上映-19:00-20:35/討論-20:45-22:00

**素人の乱「地下大学」**(高円寺)

討論「大学の外へ」 ゲスト: 平井玄(音楽評論家)、白石嘉

治(上智大学) 主催: 「地下大学」

**2月4日(木)** 上映-17:00-18:35/討論-18:45-20:00

**筑波大学** 総合研究棟A 107教室

討論「新自由主義の競争原理 人文科学の無償性」

ゲスト: 佐藤嘉幸(筑波大学)

主催: 筑波大学現代語・現代文化フォーラム

**2月5日(金)** 上映-18:00-19:35/討論-19:45-20:30

**アートエリア B1** 京阪電車中之島線「なにわ橋」地下駅構内

討論「哲学と社会の対話」

ゲスト: 本間直樹(大阪大学)、中村征樹(大阪大学)

主催: ラボカフェ/中之島哲学コレージュほか 後援: カフェフィロ

**2月6日(土)**

上映1-14:30-16:00/上映2-16:15-17:45/討論-18:00-19:30

**京都大学** 農学部総合館 W-100教室(西棟1階)

討論「哲学の現場」 ゲスト: 廣瀬純(龍谷大学)

主催: 「哲学への権利」京大上映会実行委員会(代表: 白田泰如)

**2月7日(日)** 上映-15:00-16:35/討論-16:45-18:00

**大阪大学** 豊中キャンパス 教育研究棟1 スチューデント・

コモンズ1階 開放型セミナー室

討論「哲学とデモクラシー」 ゲスト: 望月太郎(大阪大学)、

齊藤渉(大阪大学) 主催: 大阪大学文学部哲学・思想文化学専修ほか

**2月8日(月)** 上映-18:00-19:35/討論-19:40-20:30

**神戸大学** 瀧川記念学術記念交流会館大会議室

討論「ジャック・デリダにおける教育と哲学」

ゲスト: 松葉祥一(神戸市看護大学)、中畑寛之(神戸大学)

後援: 神戸大学人文学研究科

**2月中旬 フランス(パリ・国際哲学コレージュ、パリ第8**

**大学、ポルドー、ストラスブール、リヨン)** で上映予定

**3月7日(日)** 上映-15:00-16:35/討論-16:45-18:00

**東京大学** 本郷キャンパス 法文2号館2階 1番大教室

討論「哲学と教育」

ゲスト: 熊野純彦(東京大学)、鈴木泉(東京大学) 後援: 哲学会

**3月13日(土)** 上映-13:30-15:10/討論-15:30-17:30

**京都大学** 大学院人間・環境学研究科棟・地下講義室

討論「哲学への権利——教育哲学と哲学教育のあいだ」

ゲスト: 森田伸子(日本女子大学)、大河内泰樹(京都産業大学)、

山名淳(京都大学) 司会: 小野文生(京都大学)

主催: 京都大学グローバルCOE「心が活きる教育のための国際的拠点」

**3月20日(土)**(開場16:30) 上映-17:00-18:35/討論-18:45-

**渋谷 UPLINK FACTORY** (Bunkamuraより徒歩3分)

討論「知の交流空間の創造」

ゲスト: 芹沢一也(シノブス) 入場料: 1,800円(ドリンク付)

主催: UPLINK FACTORY(担当: 倉持政晴) 予約Tel: 03-6825-5502

**3月27日(土)** 上映-15:00-16:35/討論-16:45-18:00

**東京大学** 駒場キャンパス18号館ホール

討論「哲学への権利」

ゲスト: ボヤン・マンチエフ(国際哲学コレージュ副議長、新ブルガリア

大学)、ジゼル・ベルクマン(国際哲学コレージュ・プログラム・ディレクタ

ー)、小林康夫(東京大学UTCP) フランス語通訳付 主催: 東京大学グ

ローバルCOE「共生のための国際哲学教育研究センター(UTCP)」

**4月以降、一橋大学(鶴岡哲)、新潟大学(宮崎裕助)、アメリ**

**カ西海岸、韓国などで上映予定**